

<同志社人が母校を誇りに思える情報>

「同志社ファン・レポート」

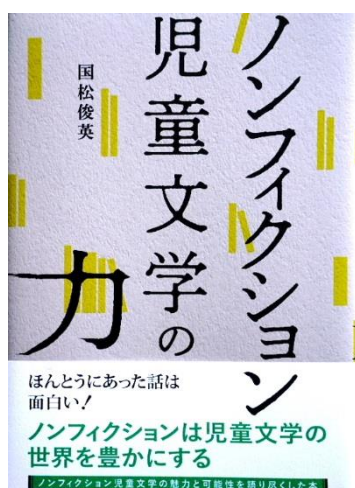
Ver.2-027 号

同志社人・国松俊英氏

【受賞】 ノンフィクション文学賞

国松俊英氏（1960年同志社大学商学部卒業）が受賞されました。

今般、日本児童文芸家協会からノンフィクション文学賞を受賞されましたのでご紹介します。この賞は『ノンフィクション児童文学はおもしろい』文溪堂（2018/1/17）とこれまでの活動が評価されたもの。



【国松俊英氏の特別賞についての審査評】

長年にわたりノンフィクション児童文学に取り組み、この間、約四十冊を越える作品を発表。ノンフィクション児童文学研究会を立ち上げるなど、後進の育成にも貢献。初心者か

らプロの作家まで、ノンフィクションを志している者にとって優れた案内本となっている、『ノンフィクション児童文学の力』(文溪堂)はその集大成ともいえる。これを含めて特別賞が相応しい。

#### 【国松氏の受賞の言葉】

初めてノンフィクションを書いたのは、1986年のことです。密猟者からオオタカを守る人たちの活動を描きました。それ以来、ずっとノンフィクションを中心に書いてきました。しかしノンフィクションは「地味で、堅苦くて、難しそうだ」といわれ、児童文学が好きな人もなかなか手に取ってくれません。

それで、ノンフィクションの世界はこんなに深くて、おもしろいものですと解説した本『ノンフィクション児童文学の力』(文溪堂)を書きました。その本の刊行と、ノンフィクションに対するこれまでの活動を評価して頂きました。とても光栄に思っております。ありがとうございました。

#### 【ノンフィクション児童文学とは】

<ノンフィクション児童文学>という分野がしっかり認められるようになったのは1970年代後半から1980年代の初めです。従ってそれまでの定義や考え方と近年のそれとは変わってきています。

<ノンフィクション児童文学>とは、子ども向けに書かれた文学性を持つ作品であり、単に事実の伝達を目的とするものではありません。それは作品の中で、人間の追求、生きることの追求を目的としたものなのです。例えば、いろんな困難や問題の中で人間がどのように生きていくか、社会の中で人間がぶつかり合ったり、助けあったりしながら、どのように生きているかを、描いたものです。

そして、子ども向けノンフィクションでは、とくに物語性が大きく要求されます。できごとや、人間を描くのに平板なものは、読者の子どもをしっかりとらえることはできないからです。

国松氏の著書『伊能忠敬』を例にすると、「伊能忠敬は何を成し遂げた人なのか。どのように生きた人で、なぜ測量と日本地図制作に関わるようになったのか、10回の測量の旅に出て、どのように歩き、測量していったのか、旅では何があったのか、などを史実・事実に基づいて、伊能忠敬の人となりとして仕事を子ども向けにわかりやすく生き生きと描き出しています。

.....

#### 【国松俊英氏について】

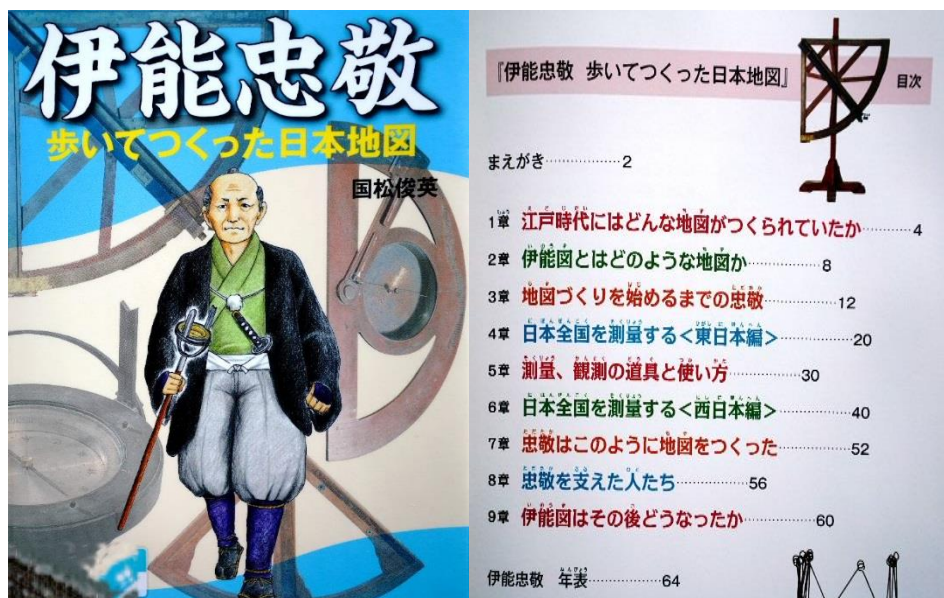
氏は、日本児童文学者協会、日本児童文芸家協会、官沢賢治学会、日本野鳥の会に所属。2010年には、作家や編集者たちと〈ノンフィクション児童文学研究会〉を立ち上げ、ノンフィクションについての研究活動を続けておられる。

作品は童話や児童小説の他、子ども向けの野鳥や自然を題材とした物、人物ノンフィクションが多い。これまでの著書は 120 冊を越えている。

おもな著書に『スズメの大研究』星野道夫 アラスカのいのちを撮りつづけて』(共に PHP 研究所)、『絵本 宮沢賢治の鳥』(岩崎書店)、『信長とまぼろしの安土城』『鳥のいる地球すばらしい』(共に文溪堂)などがある。『トキよ未来にはばたけ』(くもん出版)では、第 7 回福田清人賞を受賞されている。

なお、我々同志社人には 2012 年出版の『新島八重』(岩崎書店・フォア文庫)がお勧めです。後半には、同志社英学校の誕生や八重が新島襄と結婚して新島襄の仕事と人生を支えていくところが描かれています。ぜひ、お読み下さい。

特筆すべきは 2011 年から使用される小学国語教科書「新しい国語・五年下」(東京書籍)に『手塚治虫』が、「小学国語・六年下」(教育出版)には『伊能忠敬』から引用されて掲載されたこと。(いずれも書き下ろし作品)。教科書への採用は、作品の正確さや視点の良さが評価された証になると私は考える。



これは国松氏の著書『伊能忠敬 -歩いてつくった日本地図-』  
シリーズ名：調べる学習百科 出版者：岩崎書店 ¥3600  
ISBN：978-4-265-08435-7 内容注記：年譜、索引あり